

やいちのこ

みんさん、こんにちは。谷村第一小学校校長の大竹です。はやいもので、この学校だより「やいちのこ」も今年度の最終号となりました。谷村第一小学校に勤務し始めて、もう1年が経つのです。自分自身で、この一年間を振り返って見たのですが、大きなことを成し遂げることができたとは言えないなど反省をしているところですが、しかし、大きな事故や事件もなく終わりを迎えようとしていることは良かったなど思っているところではあります。

さて、学校は先週の金曜日の三月十七日に、卒業式を挙行しました。六年生六十六名の児童が立派な姿で、この谷村第一小学校を巣立っていきました。これで、谷村第一小学校の卒業生は、百五十年という歴史の中で、二万一千二百五十人となりました。それだけの卒業生を輩出しているのは、都留市内では本校だけです。歴史と伝統の重みを十分に感じることができるとは思いません。

その卒業生に送った私の言葉を今回は紹介したいと思います。今の六年生は、四年生の時から「コロナ禍」の中での生活を強いられ、様々な行事ができませんでした。しかし、今年になってから少しずつ、これまでの活動を取り戻すことができました。陸上記録会も校内独自の大会をやまびこ競技場で行うことができました。また、親善音楽会の代わりに、

仲間とともに 未来にはばたこう

～輝く次の一歩へ～

富士学苑高等部・中等部のジャズバンド部を招いての音楽会もできました。そんな中で、コロナ禍ではあったのですが、少しずつ心の豊かさを取り戻すことができたと感じています。そんな話を式辞の最初にしました。

次に、六年生に贈る餞の言葉として、「努力はうそをつく。しかし、無駄にはならない」という、フィギアスケートの金メダリストである羽生選手の言葉を贈りました。どんなに努力をしても、それが実らないときがある。しかし、その努力は確実に自分のためになる。だからこそ、努力を惜しまないで欲しいという話をしました。

小学校を卒業し、中学生になっていく子供たち。それぞれ違うとは思いますが、数々の困難が待ち構えていると思います。その困難をどのように乗り越えていくのか。それによって子供たちがどんな大人になっていくのかが違ってくるのだと思います。谷村第一小学校を卒業した子供たちが、全て立派な大人になっていく訳ではないかもしれませんが。しかし、その子供たちの幸せを感じながら、豊かな人生を送ってほしいと思います。

さあ、六年生が卒業したら、次は五年生の出番です。五年生が学校の中心になってくれることを望みます。そして、全校児童で、さらにすばらしい谷村第一小学校を創っていきましょう。来年度の活躍を期待しています。



3月
「生きる力」を育み、
未来に生きる児童の育成

3月号
文責：大竹

日	曜	行事
6	木	入学式準備 遠足下見
7	金	令和5年度入学式
10	月	対面式・新任式・始業式 街頭指導 1年生：送り下校
11	火	平常5校時 街頭指導 1年生送り 給食開始(2~6年)
12	水	街頭指導 1年生送り
13	木	街頭指導 身体測定 4~6年 短縮6校時 1年生給食開始 登校班会議 心電図検査 1年
14	金	登校安全指導 身体測定 1~3年
17	月	視力検査：5・6年 委員会活動①



主な行事予定

日	曜	行事
18	火	学力テスト (全校)
19	水	1年生を迎える会 校内研究① 視力検査：3・4年
20	木	家庭訪問① 短縮5校時 耳鼻科検診
21	金	家庭訪問② 短縮5校時 視力検査 1・2年
24	月	家庭訪問③ 短縮5校時
25	火	学校創立記念日 (休業日)
26	水	眼科検診：全校
27	木	家庭訪問④ 短縮5校時 避難訓練 聴力検査 1・2年
28	金	家庭訪問⑤ 短縮5校時 聴力検査 3・5年
29	土	昭和の日

谷一小的新たな日常～SCENE 卒業式

～輝く次の一步へ～ 



卒業生、未来へ発進！



心を込めて花束を。



卒業式に寄せられたメッセージ



いよいよ卒業式の始まりです



担任の最後の呼名



感謝と希望・・・そして 中学校への決意を自分の言葉としてしっかりと伝えた



さあ、新たなステージの開幕です。これからの卒業生の活躍を期待します！！



編集後記



今年、この「やいちのこ」を執筆させていただき、12枚の学校だよりを発行することができました。内容的にはまだまだ物足りなさを感じている方も多かったのではないかと思います。しかし、中には「学校だよりを読んでいると、学校で大変さがよく分かる」という言葉をいただいたり、「校長先生がどんなことを考えているのかが分かって楽しかった」という言葉をいただいたりしました。そんな言葉を聞くに付け、「大変だったけど、学校だよりを発行してきてよかったなあ」などと思っていました。

今年は、コロナ禍ということもあり、地域の方や保護者の方と接する機会が少なかったと思います。そのため、学校の状況や苦勞等があまり

地域や保護者の方に伝わっていなかったと感じています。学校評価の結果からもそのことが伺えます。

来年度は、この学校だよりだけが学校の様子を伝えることができるということではなく、保護者の方や地域の方と実際に触れ合う中で、学校の良さや大変さを伝えていければと思っています。

また、学校を開放できる機会も少なかったと感じています。保護者の方や地域の方に、気軽に学校に足を向けていただけるようなことも検討していきたいと思っています。これも、全て「コロナ」の状況によるのかなと思っています。

来年の5月以降はかなり期待できるとしています。その日を楽しみにして下さい。

